

飛騨農林事務所の普及活動状況

令和3年12月3日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■青年農業士 ひだファーマーズミーティングの開催

11月4日に岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部主催による「ひだファーマーズミーティング」が高山市で開催された。

ひだファーマーズミーティングは若手農家や新規就農者が地域や品目を超えた仲間づくり、情報交換をできる場として年に1度開催しており、今回で5回目となる。昨年からの交流の機会が少なかったこともあり、会場では活発な話し合いが行われた。

会場では新規就農者と研修生、青年農業士、農業普及課職員がグループを作り、テーマを決めずに話し合いが行われ、新規就農者の不安や、販売方法、経営内容、地域のブランド化など話題は多岐にわたった。また、参加者からは他の品目の生産者との交流が視野を広めることができ、ファーマーズミーティングのような交流の機会を今後も続けてほしいとの声を聞くことができた。

農業普及課は関係機関と連携しながら青年農業士の活動を支援し、担い手の育成につなげていく。



【ファーマーズミーティング風景】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 水稲種子の生産物審査を実施

来年度の水稲種子となる種粳について、農業普及課では、審査項目の発芽率の調査を実施している。発芽率以外の項目については、11月10日にJAひだの農産物検査員の協力のもと、粳殻を取り除き玄米にし、異品種混入がないか、病虫害粒や雑草種子の混入割合が基準以下となっているか審査を実施した。

審査の結果、一部不合格となるものもあったが、次年度に必要な種子量は確保できる見込みとなっている。農業普及課では、次年度以降も良質な種子生産に向けた支援を継続する。



【サンプル種子から審査実施】

■水稲 水稲除草剤の使用法を講演

JAひだは11月12、13日に本店（飛騨地域農業管理センター）でアグリイノベーション2021を開催し、生産者向けの資材展示会と講演会を行った。

近年、ノビエやホタルイ、オモダカなどの雑草が繁茂している水田が増えていることから、農業普及課はこれらの雑草による被害を防ぐため、「水稲除草剤の上手な使い方」と題して講演を行った。会場では、熱心に聴講する生産者の姿が見られ、講演終了後も多くの質問を受けるなど、雑草対策への関心の高さがうかがわれた。農業普及課では、今後も水稲除草剤に関する指導や情報提供を充実させ、水田雑草による被害の低減を目指す。



【水稲除草剤の講演】

■果樹 久々野町果実出荷組合 令和3年度「サンふじ」目揃え会が開催される

久々野町果実出荷組合では、令和3年度「サンふじ」目揃え会を11月11日に開催した。

目揃え会では、今年のリンドの生育状況を鑑みた出荷基準について、当組合流通部長が実物を交え説明し、意識統一が図られた。農業普及課からは、気象推移や病虫害の発生状況について情報提供を行った。加えて、各病虫害を効果的に防除するために、病虫害の特徴や発生消長、気象状況を把握したうえで、薬剤の選択や使用時期の変更等を行う必要があることを説明した。

今後も、病虫害の発生状況に対応した次年度防除暦の作成も含め、果樹の安定生産に向けた技術普及や販売PRにおいて、関係機関との連携を通じた支援を継続する。



【果出荷基準を確認】

■夏秋トマト 飛騨蔬菜出荷組合トマト部会 全体研修会開催

令和3年12月3日、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会が主催する全体研修会がJAひだ農業管理センターで開催され、本年度の生産販売状況を振り返るとともに、次年度の部会方針や栽培技術の確認が図られた。

本年度は夏秋トマトの栽培期間に三度の日照不足や多雨の期間があり、多くの部会員は重要病害である「灰色かび病」の防除対応に追われた。

そのため、農業普及課からは、スマート農業関連事業（「データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業」）で得られた実証ほ場でのデータを活用し、「灰色かび病」の発生状況やその被害軽減対策に関して説明を行った。

今後、各地区における研修会が開催されるとともに、部会員の個別状況に応じた面談も計画されており、農業普及課は課題の解決にむけて支援を継続する。



【病害対策を強く呼び掛け】